



主な動きのあらまし ..... 企画部統計課

■人口（2月1日）

本県の人口は、1月中に980人増加し、2月1日現在で、2,960,911人（男1,479,177人、女1,481,734人）となった。

内訳は、自然動態で、341人（出生2,439人、死亡2,098人）増加し、社会動態で、639人（転入9,020人、転出8,381人）増加した。前年同月と比べると4,995人（0.2%）の増加である。

ある。

市町村別では、増加が12市35町村、減少が8市29町村、増減なしが1町である。

世帯数についても1月中に、818世帯増加し、926,374世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用（12月）

1. 平均賃金の推移

12月の現金給与総額は、調査産業計で821,860円、対前年同月比5.7%減、このうち、きまって支給する給与は、305,132円、対前年同月比もちあいであった。また、このうち、所定内給与は275,232円、対前年同月比0.3%減であり、超過労働給与は29,900円、対前年同月比3.3%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比4.5%減であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。平成8年1月分の速報値は、平成8年抽出替えに伴うギャップを修正した後、公表の予定です。

2. 労働時間

12月の総実労働時間は、調査産業計で165.3時間、対前年同月比0.5%増であった。このうち、所定内労働時間は149.4時間、対前年同月比0.5%増、所定外労働時間は、15.9時間、対前年同月比もちあいであった。

3. 雇用の動き

12月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比1.2%減であった。

■鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉（1月）

本県における平成8年1月の“鉱工業指数”（平成2年=100）は、季節調整済指数で、生産が99.8、出荷が105.2、在庫が121.4で、前月比は、生産が1.4%の低下、出荷が2.5%の上昇、在庫が1.2%の低下であった。

前年同月比（原指数）は、生産が0.0%の低下、出荷が3.2%の上昇、在庫が12.3%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、繊維工業、一般機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が上昇し、精密機械工業、鉱業、電気機械工業等が低下した。出荷では、一般

機械工業、石油・石炭製品工業、繊維工業等が上昇し、鉱業、精密機械工業、輸送機械工業等が低下した。在庫では、輸送機器工業、鉱業、パルプ・紙・紙加工品工業等が上昇し、食料品・たばこ工業、電気機械工業、プラスチック製品工業等が低下した。

財別にみると、生産では、その他用生産財、資本財が上昇し、耐久消費財、鉱工業用生産財等が低下した。出荷では、その他用生産財、資本財等が上昇し、鉱工業用生産財、非耐久消費財が低下した。在庫では、すべてが低下した。

■消費者物価指数（1月）

平成8年1月の茨城県消費者物価指数（県平均）は、総合で106.3（平成2年=100）となり、前月比0.5%の下落、前年同月比1.0%の下落となった。

今月の上がった主な項目……野菜・海草8.7%、果物7.9%、魚介類1.9%

今月の下がった主な項目……衣料10.8%、シャツ・下着6.7%、乳卵類1.7%、油脂・調味料1.7%

生鮮食品を除く総合は106.4となり、前月比0.9%の下落、前年同月比0.6%の下落であった。

■費目別指数

（平成2年=100）

区分	指数	上昇率 (%)		区分	指数	上昇率 (%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	106.3	△0.5	△1.0	保健医療	102.9	0.0	0.2
食料	105.3	1.1	△2.9	交通通信	98.6	△0.1	△0.4
住居	116.8	△0.1	1.0	教育	116.8	0.0	2.5
光熱・水道	101.4	△1.1	△1.0	教養娯楽	108.0	0.0	△1.9
家具・家事用品	95.0	△0.9	△3.1	諸雑費	104.8	0.2	0.0
被服及び履物	106.5	△7.1	0.0	生鮮食品を除く総合	106.4	△0.9	△0.6